

2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科午		学年	2	開講区分	半期	担当教員 今井 紀代子先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30 (1)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>医療の基礎となる生理学のうち、内分泌系・生殖系・感覚系・生体の防御機構を習得する授業を行う。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講して欲しい。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んで欲しい。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>医学の基礎となる生理学の知識を習得する。身体の正常な働きを説明できるようになる。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 生理学[医歯薬出版]					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	第8章 内分泌A、ホルモンの特徴～B、ホルモンの種類とその働き (視床下部と下垂体)			内分泌腺を理解できる。ホルモンの性質、作用機序、分泌調節を理解できる。					
2	第8章 B、ホルモンの種類とその働き(下垂体ホルモン～副甲状腺ホルモン)			下垂体～副甲状腺から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。					
3	第8章 B、ホルモンの種類とその働き(膵臓ホルモン～副腎ホルモン)			膵臓～副腎から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。					
4	第8章 B、ホルモンの種類とその働き(精巣・卵巣のホルモン～その他)第9章 生殖・成長と老化 A、生殖～			性腺から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。生殖器の構造と働きを理解できる。					
5	第9章 b.女性生殖器 (2)性周期			女性性周期を理解できる。					
6	第9章 B、妊娠と出産～D、老化			妊娠～出産までの流れを理解できる。老化について理解できる。					
7	確認テスト第13章 感覚 A、感覚一般～			テストにより効果測定、理解度の把握。感覚を分類することができ、各種感覚に共通する一般的特徴を理解できる。					
8	テスト返却・解説第13章 B、体性感覚～			テストの解説。体性感覚、内臓感覚について理解できる。					
9	第13章 D、痛覚			痛覚について理解できる。					
10	第13章 特殊感覚①			特殊感覚である味覚・嗅覚・聴覚を理解できる。					
11	第13章 特殊感覚②			特殊感覚である平衡感覚・視覚を理解できる。					
12	第14章 生体の防御機構生体の防御機構 a.非特異的防御機構～ c.白血球の働き			非特異的防御機構・特異的防御機構の特徴を理解できる。					
13	第14章 免疫に働く液性因子～B、免疫反応			免疫系で働く白血球や液性因子の働きを理解できる。					
14	期末テスト第15章 身体活動の協調			テストにより効果測定、理解度の把握。生体が環境に順応・適応する仕組み、ホメオスタシス機構について理解できる。					
15	テスト返却・解説第15章			テストの解説。総復習					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じて配布プリントによる授業を行う。				

2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科	学年	2	開講区分	半期	担当教員 柏崎 雅大 先生/酒井大輝先生			
授業科目名 解剖生理学	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

教員資格を持つ鍼灸師が、基礎医学である解剖学、及び生理学を習得する授業を行う。解剖学では生殖器系、感覚器系について、生理学では筋、運動についての講義を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。

〔到達目標〕

解剖学:生殖器の構造、特殊感覚の構造と伝導路について理解し、自ら要点を整理することができる。生理学:筋の機能、運動の仕組みについての知識を習得し、自ら要点を整理することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

解剖学(医歯薬出版)
生理学(医歯薬出版)
解剖学トレーニングノート(医学教育出版社)

〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため、あらかじめ教科書や配布資料を予習すること。また復習をし、人体の構造や機能を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	解剖学 第6章 生殖器系;男性生殖器	精巣の構造、精子の発生と精路の構造を理解する。
2	解剖学 第6章 生殖器系;女性生殖器	卵巣の構造、卵子の発生を理解する。
3	解剖学 第6章 生殖器系;女性生殖器、発生	子宮、膣の構造を理解する。発生の諸段階を理解する。
4	解剖学 第9章 感覚器;視覚器	眼球の構造、視覚の伝導路を理解する。
5	解剖学 第9章 感覚器;平衡聴覚器	聴覚器の構造、聴覚の伝導路を理解する。平衡覚の構造を理解する。
6	解剖学 第9章 感覚器;平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器	平衡覚の構造、平衡覚の伝導路を理解する。味覚器と嗅覚器の伝導路を理解する。
7	解剖学 復習 確認テスト	生殖器および感覚器の構造を復習・確認テストを行い、理解できていない内容を把握し、理解力を高める。
8	生理学 第11章 筋 A骨格筋の構造と働き~B筋の収縮の仕組み	骨格筋の微細構造と、興奮収縮連関を理解できる。
9	生理学 第11章 筋 Cエネルギー供給の仕組み	筋収縮のエネルギー代謝と熱産生を理解できる。
10	生理学 第11章 心筋と平滑筋	心筋と平滑筋の構造を理解できる。心筋、平滑筋、骨格筋の特徴と相違を理解できる。
11	生理学 第12章 運動 A骨格筋の支配神経~e骨格筋の緊張	骨格筋の支配神経を理解できる。
12	生理学 第12章 運動 B運動の調節	中枢神経の各レベルの運動調節機構を理解できる。
13	生理学 第12章 C錐体路系と錐体外路系~D発生と言語	運動の伝導路を理解できる。
14	生理学 復習 確認テスト	筋および運動の機能を復習・確認テストを行い、理解できていない内容を把握し、理解力を高める。
15	期末テスト 解答・解説	テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	半期	担当教員 東野 友寛先生			
授業科目名 運動学		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>患者に対する運動指導を経験し、姿勢や歩行について知見を有する教員が、運動学を習得する授業を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>身体運動を分析する基本的観点と専門用語を理解することを目的とし、身体各部の詳細と運動を知る。さらに姿勢や歩行について知識を身につけ、理解、説明できるようにする。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 リハビリテーション概論(医歯薬出版)					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、あらかじめ教科書や配布資料を予習すること。また復習をし、人体各部の構造や機能を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション A. 運動学の基礎 1. 関節と運動の力学				運動学の定義を理解できる。				
2	A.運動学の基礎 2. 姿勢とその異常				正常立位と異常立位の違いを理解できる。				
3	A.運動学の基礎 3. 運動路と感覚路				錐体路と錐体外路の違いを理解できる。				
4	A.運動学の基礎 4. 反射と随意運動				姿勢反射と立ち直り反射を理解できる。				
5	B.身体各部の機能 1. 脊柱・体幹の機能/確認テスト①				脊柱の動きと胸郭の動きを理解できる。				
6	B.身体各部の機能 2. 肩甲帯・肩の機能				肩甲上腕リズム・肩の動きを理解できる。				
7	B.身体各部の機能 3. 肘と前腕の機能				肘と前腕の動きと、作用する筋を理解できる。				
8	B.身体各部の機能 4. 手と手の機能				手のアーチと手に起こりやすい変形を理解できる。				
9	B.身体各部の機能 5. 骨盤と股関節の機能/確認テスト②				骨盤と股関節の動きを理解できる。				
10	B.身体各部の機能 6. 膝関節の機能				膝関節のメカニクスについて理解できる。				
11	B. 身体各部の機能 7. 足の機能				足関節の動きと、起こりやすい変形を理解できる。				
12	B.身体各部の機能 8. 正常歩行と異常歩行				歩行サイクルについて理解できる。				
13	B.身体各部の機能 9. 顔面および頭部の筋				頭顔面部の筋と動きを理解できる。				
14	総復習				運動学全般を復習し、習熟度を高めることができる。				
15	期末テスト 解答・解説				テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト①と確認テスト②と期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	通年	担当教員 櫻井 恵司 先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
病理学概論									
〔授業の学習内容と心構え〕									
<p>教員資格を持つ鍼灸師、または病理学について知見を有する教員が、疾病によって起こる様々な変化、疾病の発生機序と転機についての講義を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。</p>									
〔到達目標〕									
<p>病因、循環障害、退行性病変、進行性病変の病態について理解し、自ら要点を整理し、知識を得ることを目標とする。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
病理学概論(医歯薬出版)					<p>専門用語が多い科目のため、あらかじめ教科書や配布資料を予習すること。また復習をし、人体の構造や機能を理解することが望ましい。</p>				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション 第1章 病理学とは 第2章 疾病についての基本的な考え方				病理学とは何か、疾病の分類について理解できる。				
2	第3章 病因・内因; 素因、遺伝、内分泌				年齢、性により罹患しやすい疾患を理解できる。染色体異常により生じる疾患を理解できる。内分泌疾患を理解できる。				
3	第3章 病因・内因; 免疫、外因; 供給障害				免疫応答の概要を理解できる。				
4	第3章 病因・外因; 供給障害 内因確認テスト				ビタミンや無機塩類の過不足により生じる疾患や症状を理解できる。				
5	第3章 外因; 物理的病因、化学的病因				放射線の感受性の高い器官を理解できる。化学物質により生じる疾患を理解できる。				
6	第3章 外因; 医原病、環境汚染、生物的病因				医療行為により発症する疾患を理解できる。日和見感染や菌交代現象について理解できる。				
7	第3章 外因; 生物的病因 第4章 循環障害; ヒトの循環系				病原微生物と病原微生物により生じる感染症を理解できる。ヒトの血液循環を復習し、理解できる。				
8	第4章 循環障害; 充血・うっ血、貧血・虚血、出血 外因確認テスト				重要なうっ血と発生機序を理解できる。貧血の種類と疾患を理解できる。出血の種類と分類を理解できる。				
9	第4章 循環障害; 血栓症、塞栓症、梗塞				血栓形成の誘因を理解できる。塞栓症や塞栓の種類を理解できる。貧血性梗塞と出血性梗塞を起こしやすい器官を理解する。				
10	第4章 循環障害; 水腫・浮腫・脱水症				浮腫の病態生理を理解できる。一次性脱水症と二次性脱水症の病態生理を理解できる。				
11	第4章 循環障害; ショック 第5章 退行性病変; 萎縮、変性				一次性ショックと二次性ショックの相違、およびショックの原因とその病態を理解できる。変性の分類と疾患を理解できる。				
12	第5章 退行性病変; 加齢と老化、生活習慣病、壊死と死 循環障害確認テスト				加齢が影響する疾患を理解できる。主な生活習慣病の病態を理解できる。壊死の分類、病態生理を理解できる。				
13	第5章 退行性病変; 壊死と死、アポトーシス 第6章 進行性病変; 肥大と増殖				脳死の判定基準について理解できる。脳死と植物状態の相違を理解できる。肥大の分類と病態を理解できる。				
14	第6章 進行性病変; 再生、化生、移植				再生の分類について理解できる。化生と腫瘍の関係を理解できる。移植の分類と拒絶反応を理解できる。				
15	期末テスト 解答・解説				テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
<p>評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>					<p>毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。</p>				

2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	通年	担当教員			櫻井 恵司 先生
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員資格を持つ鍼灸師、または病理学について知見を有する教員が、疾病によって起こる様々な変化、疾病の発生機序と転機についての講義を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。									
〔到達目標〕									
炎症、腫瘍、免疫・アレルギー、先天性異常の病態について理解し、自ら要点を整理し、知識を得ることを目標とする。									
〔使用教材、参考文献等〕 病理学概論(医歯薬出版)					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、あらかじめ教科書や配布資料を予習すること。また復習をし、人体の構造や機能を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
16	第6章 進行性病変;創傷治癒・組織内異物の処理 第7章 炎症;炎症の一般				創傷治癒の過程を理解できる。異物の処理の種類を理解できる。炎症の機序を理解できる。				
17	第7章 炎症;炎症の一般、炎症の分類				炎症の機序を理解できる。炎症の分類と疾患を理解できる。				
18	第7章 炎症;炎症の分類 第8章 腫瘍				主な特異性炎の病態を理解できる。				
19	第8章 腫瘍;腫瘍の一般				細胞異型について理解できる。腫瘍組織について理解できる。				
20	第8章 腫瘍;腫瘍の一般				腫瘍の分類について理解できる。				
21	確認テスト 解答・解説				テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。				
22	第8章 腫瘍;腫瘍の一般				前癌病変を理解できる。転移しやすい器官、転移方式について理解できる。				
23	第8章 腫瘍;腫瘍の一般、良性腫瘍、悪性腫瘍				腫瘍の発生原因(外因)について理解できる。				
24	第9章 免疫異常・アレルギー:液性免疫と細胞性免疫				免疫の概要を理解する。抗体の種類と特徴を理解できる。				
25	第9章 免疫異常・アレルギー:アレルギー				アレルギーの分類とその病態、具体的な疾患を理解できる。				
26	第9章 免疫異常・アレルギー;免疫不全、自己免疫異常				免疫不全について理解できる。非特異的臓器自己免疫疾患について理解できる。主な自己免疫疾患について理解できる。				
27	第10章 先天性異常;先天性異常総論				先天性代謝異常について理解できる。染色体異常に基づく奇形を理解できる。				
28	第10章 先天性異常;先天性異常総論				催奇性因子について理解できる。奇形の分類を理解できる。				
29	第10章 先天性異常;遺伝性疾患、染色体異常				単純遺伝性の異常を理解できる。				
30	期末テスト 解答・解説				テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科 授業科目名 臨床医学総論	学年 2	開講区分 通年	担当教員 山田 英史先生	時間数(単位) 30 (1)	授業回数 15
[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 様々な疾患の鑑別に従事していた教員が、全ての医療職に必要とされる診察法と症候について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。 座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。またチーム医療の必要性を理解し、鍼灸師が担う医療について知見を広めて欲しい。					
[到達目標] 医療面接技法、診察の概要・方法、生命聴講、全身の診察、局所の診察の知識を習得することを目標とする。各診察について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。					
[使用教材、参考文献等] 臨床医学総論(医歯薬出版)			[準備学習・時間外学習] 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし、用語の意味を理解することが望ましい。		
回	[授業概要]		到達目標(できるようになること)		
1	・第1章; 診察の概要 ・第2章; 診察の方法 医療面接の意義、関連用語、診察の意義と方法		医療面接の意義、関連用語、診察の意義と方法について理解できる。		
2	・第2章; 診察の方法 視診、触診、打診		視診、触診、打診の意義と方法について理解できる。		
3	・第2章; 診察の方法 聴診、測定法、神経系の診察		聴診、測定法、神経系の診察の意義と方法について理解できる。		
4	・第3章; 生命聴講(バイタルサイン)の診察 体温、脈拍		体温、脈拍の診察の意義と診察方法について理解できる。		
5	・第3章; 生命聴講(バイタルサイン)の診察 血圧、呼吸		血圧、呼吸の診察の意義と診察方法について理解できる。		
6	・第4章; 全身の診察 顔貌、精神状態、言語		顔貌、精神状態、言語の診察の意義と診察方法について理解できる。		
7	・第4章; 全身の診察 身体計測、体型・体格、栄養状態、姿勢と体位		身体計測、体型・体格、栄養状態、姿勢と体位の診察の意義と診察方法について理解できる。		
8	確認テスト 解説		テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。		
9	・第4章; 全身の診察 歩行		歩行の診察の意義と診察方法について理解できる。		
10	・第4章; 全身の診察 皮膚・粘膜・皮下組織、爪の状態		皮膚・粘膜・皮下組織、爪の状態の診察の意義と診察方法について理解できる。		
11	・第4章; 全身の診察 リンパ節、その他の一般的状態		リンパ節、その他の一般的状態の診察の意義と診察方法について理解できる。		
12	・第5章; 局所の診察 頭部・顔面		頭部・顔面の診察の意義と診察方法について理解できる。		
13	・第5章; 局所の診察 眼、鼻		眼、鼻の診察の意義と診察方法について理解できる。		
14	・第5章; 局所の診察 耳、口腔		耳、口腔の診察の意義と診察方法について理解できる。		
15	期末テスト 解説		テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。		
[評価について] 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。		

2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	通年	担当教員 山田 英史先生		
授業科目名 臨床医学総論		必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数 15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>様々な疾患の鑑別に従事していた教員が、全ての医療職に必要なとされる適切な診察法と症候について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。</p> <p>座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。またチーム医療の必要性を理解し、鍼灸師が担う医療について知見を広めて欲しい。</p>								
<p>〔到達目標〕</p> <p>局所の診察、神経系の診察、運動機能検査、その他の診察、臨床検査法、おもな症状の診察法、治療学、臨床心理の知識を習得することを目標とする。</p> <p>各診察について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。</p>								
〔使用教材、参考文献等〕 臨床医学総論(医歯薬出版)				〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし、用語の意味を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)				
16	・第5章;局所の診察 頸部、胸部、乳房、肺・胸膜			頸部、胸部、乳房、肺・胸膜の診察の意義と診察方法について理解できる。				
17	・第5章;局所の診察 腹部・背部			腹部・背部の診察の意義と診察方法について理解できる。				
18	・第5章;局所の診察 四肢			四肢の診察の意義と診察方法について理解できる。				
19	・第6章;神経系の診察 感覚検査法、反射検査			感覚検査法、反射検査の診察の意義と診察方法について理解できる。				
20	・第6章;神経系の診察 脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査、その他の検査			脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査、その他の検査の診察の意義と診察方法について理解できる。				
21	・第6章;神経系の診察 運動麻痺、筋肉の異常、不随意運動			運動麻痺、筋肉の異常、不随意運動の診察の意義と診察方法について理解できる。				
22	中間テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
23	・第6章;神経系の診察 協調運動～徒手による整形外科的検査法			協調運動～徒手による整形外科的検査法の診察の意義と診察方法について理解できる。				
24	・第8章;その他の診察 救急時の診察～高齢者の診察 ・第9章;臨床検査法 一般検査			救急時の診察～高齢者の診察、一般検査の診察の意義と診察方法について理解できる。				
25	・第9章;臨床検査法 血液生化学検査、生理学的検査および画像診断の概要			血液生化学検査、生理学的検査および画像診断の概要の診察の意義と診察方法について理解できる。				
26	・第11章;治療学 ・第12章;臨床心理			治療学、臨床心理における診察の意義と診察方法について理解できる。				
27	・第10章;おもな症状の診察①			各種症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状、検査と鑑別診断、治療について理解できる。				
28	・第10章;おもな症状の診察②			各種症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状、検査と鑑別診断、治療について理解できる。				
29	・第10章;おもな症状の診察③			各種症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状、検査と鑑別診断、治療について理解できる。				
30	期末テスト 解説			テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	半期	担当教員 藤掛 雅博先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
経絡経穴概論Ⅱ									
<p>[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>経絡経穴とは病状の分析、病機変化の検討を制定するための重要なものであり、古くから鍼灸師が重視してきたものである。経絡経穴概論Ⅱでは初心者の臨床応用を強化するために基礎から応用へ展開していく。</p>									
<p>[到達目標]</p> <p>基礎力を固め、考える力を養う。</p>									
[使用教材、参考文献等]					[準備学習・時間外学習]				
<p>新版 経絡経穴概論 医道の日本社</p>					<p>専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習しておくこと。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。</p>				
回	[授業概要]				到達目標(できるようになること)				
1	流注・骨度法など				流注・骨度法などを理解できる。				
2	手の陰経:取穴部位・要穴				手の陰経:取穴部位・要穴を理解できる。				
3	手の陽経:取穴部位・要穴				手の陽経:取穴部位・要穴を理解できる。				
4	背部:取穴部位・要穴				背部:取穴部位・要穴を理解できる。				
5	確認テスト				1～4で習得した知識の再確認ができる。				
6	足の陽経:取穴部位・要穴1				足の陽経:取穴部位・要穴を理解できる。				
7	足の陽経:取穴部位・要穴2				足の陽経:取穴部位・要穴を理解できる。				
8	足の陰経:取穴部位・要穴				足の陰経:取穴部位・要穴を理解できる。				
9	胸部・腹部:取穴部位・要穴				胸部・腹部:取穴部位・要穴を理解できる。				
10	要穴まとめ・組合せ穴				要穴まとめ・組合せ穴を理解できる。				
11	奇経など				奇経を理解できる。				
12	頸部・顔面・頭部:取穴部位				頸部・顔面・頭部:取穴部位を理解できる。				
13	頸部・顔面・頭部:取穴部位				頸部・顔面・頭部:取穴部位を理解できる。				
14	定期試験				問題の解法が導きだせるようになる。				
15	解答・解説, 総復習				期末試験の解答解説を行う。				
[評価について]					[特記事項]				
<p>評価は 筆記試験で行う。暗唱(30点)と確認テスト(20点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。</p>					<p>十四経については所属する経穴名が所定の時間内に暗唱できること。必ず復習を行うこと。</p>				

2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	通年	担当教員 佐々木 史子先生			
授業科目名 臨床医学各論 I		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30 (1)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>様々な疾患の鑑別に従事している教員が、主要な疾患の一般的な臨床症状、病態、診断、治療法について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。 座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>感染症、消化管疾患、肝・胆・膵疾患、呼吸器疾患の知識を習得することを目標とする。 各疾患について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 臨床医学各論(医歯薬出版)					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習しておくこと。また授業後は復習をし、各単元で学んだ疾患について必要な知識を列挙できるようになることが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	第1章; 感染症 総論、細菌感染症				感染症総論、細菌感染症の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
2	第1章; 感染症 細菌感染症、ウイルス感染症、性感染症				細菌感染症、ウイルス感染症、性感染症の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
3	第1章; 感染症 ウイルス感染症、性感染症 確認テスト				ウイルス感染症、性感染症の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
4	第2章; 消化管疾患 口腔疾患、食道疾患				口腔疾患、食道疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
5	第2章; 消化管疾患 胃・十二指腸疾患				胃・十二指腸疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
6	第2章; 消化管疾患 腸疾患				腸疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
7	第2章; 消化管疾患 腸疾患、腹膜疾患				腸疾患、腹膜疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
8	確認テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	第3章; 肝・胆・膵疾患 肝臓疾患				肝臓疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
10	第3章; 肝・胆・膵疾患 肝臓疾患、胆道疾患				肝臓疾患、胆道疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
11	第3章; 肝・胆・膵疾患 胆道疾患、膵臓疾患 確認テスト				胆道疾患、膵臓疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
12	第4章; 呼吸器疾患 感染性呼吸器疾患				感染性呼吸器疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
13	第4章; 呼吸器疾患 閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器疾患				閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
14	第4章; 呼吸器疾患 その他の呼吸器疾患				その他の呼吸器疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
15	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	通年	担当教員 進藤 千聖先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
臨床医学各論 I									
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>様々な疾患の鑑別を行ってきた教員が、主要な疾患の一般的な臨床症状、病態、診断、治療法について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。 座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>腎・尿器疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患、整形外科疾患の知識を習得することを目標とする。 各疾患について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 臨床医学各論(医歯薬出版)					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習しておくこと。また授業後は復習をし、各単元で学んだ疾患について必要な知識を列挙できるようになることが望ましい。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
16	第5章;腎・尿器疾患 原発性糸球体腎炎、腎不全			原発性糸球体腎炎、腎不全疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。					
17	第5章;腎・尿器疾患 感染症、腫瘍性疾患			感染症、腫瘍性疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。					
18	第5章;腎・尿器疾患 腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患 確認テスト			腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。					
19	第6章;内分泌疾患 下垂体疾患、甲状腺疾患			下垂体疾患、甲状腺疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。					
20	第6章;内分泌疾患 副腎疾患 確認テスト			副腎疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。					
21	第7章;代謝栄養疾患 糖代謝異常、脂質代謝異常			糖代謝異常、脂質代謝異常について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。					
22	第7章;代謝栄養疾患 尿酸代謝異常、その他の代謝異常症 確認テスト			尿酸代謝異常、その他の代謝異常症について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。					
23	第8章;整形外科疾患 総論、関節疾患			整形外科疾患総論、関節疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。					
24	第8章;整形外科疾患 骨代謝性疾患・骨腫瘍			骨代謝性疾患・骨腫瘍について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。					
25	第8章;整形外科疾患 筋・腱疾患、形態異常			筋・腱疾患、形態異常について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。					
26	第8章;整形外科疾患 脊椎疾患、脊髄損傷			脊椎疾患、脊髄損傷について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。					
27	第8章;整形外科疾患 外傷			外傷について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。					
28	第8章;整形外科疾患 外傷、その他の整形外科			外傷、その他の整形外科について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。					
29	第8章 整形外科疾患その他整形外科			解剖生理を復習しながら、病態を推測する。病態を考えながら症状、診断、治療法について理解できる。					
30	期末評価試験			試験により知識のアウトプットを行い、復習すべきポイントを理解する。					
〔評価について〕 試験はFormsにて行う。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 授業毎の練習問題に取り組み、知識の積み重ねをすること。資料をデジタルノート等を活用し、時間場所を選ばずに復習できる環境を自ら築くように工夫すること				

2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	半期	担当教員 高濱 晴美先生			
授業科目名 東洋医学概論Ⅱ		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
東洋医学を通じて地域の健康増進に努めた教員が、鍼灸の基礎となる東洋医学の考え方や体・病の捉え方など基本から習得できる授業を行なう。初めて聞くような言葉や漢字がたくさん出てくるので、意味などを覚えながら受講できるよう、復習も欠かさず授業に臨んで欲しい。									
〔到達目標〕 鍼灸の基本となる東洋医学の知識を復習しながら、応用できるようになる。また、東洋医学的な人体の考え方や病気の考え方を修得し実技にも結びつけることが出来るようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕 新版 東洋医学概論(医道の日本社)					〔準備学習・時間外学習〕 毎回小テストを実施するので前回の授業の復習をしっかりとってきてください。				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	四診について(望診)①			人体を見るだけで身体の悪いところなどが分かるようになる。					
2	四診について(望診)②			人体を見るだけで身体の悪いところなどが分かるようになる。					
3	四診について(聞診)①			声や臭いなどから身体の悪いところなどが分かるようになる。					
4	四診について(聞診)②			声や臭いなどから身体の悪いところなどが分かるようになる。					
5	確認テスト 解答・解説			中間テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
6	四診について(問診)①			患者さんに対してどのような内容の質問をし、答えてもらうのかを理解し実践できるようになる。					
7	四診について(問診)②			患者さんに対してどのような内容の質問をし、答えてもらうのかを理解し実践できるようになる。					
8	四診について(切診)①			直接触れて身体の悪いところなどが分かるようになる。					
9	振り返りと四診の続き			テストの振り返りを行い、習得できていないところを再確認する。四診の切診について理解を深める。					
10	四診合参について			四診を総合的に判断し、病状を明らかにすることで正確な弁証を行なって治療へと結びつけることが出来る。					
11	弁証について(八綱弁証、気血津液弁証、臓腑弁証)			それぞれの弁証を理解し、特徴を理解することが出来る。					
12	弁証について(経絡弁証、六経弁証、衛気営血弁証など)			それぞれの弁証を理解し、特徴を理解することが出来る。					
13	論治について(治則、治法、治療法の概要)			具体的な治療方針について学び理解することが出来る。					
14	弁証論治の進め方と証の決定について			弁証の手順の確認をして、臨床に活かせるようになる。					
15	期末テスト 解答・解説			期末テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は 筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕				

2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	通年	担当教員 進藤 千聖先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30 (1)	授業回数	15
応用はり実技									
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 大関節を中心に構造機能を理解した上で、主要筋肉、靭帯への刺鍼を行う。また、適正に機材の使用を行い鍼通電療法を実施する。 主動筋と拮抗筋の関係性を刺鍼前・後の評価から理解する。施術者および患者役として体感した情報を元に関連する知識を自ら調べ、</p>									
<p>〔到達目標〕 鍼灸治療の現場で対応する確立の高い整形外科疾患を中心に病態鑑別ができるようになる。また、病態に応じた患部への鍼施術が指示通りに出来る。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 練習用動画、配布資料					〔準備学習・時間外学習〕				
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	ガイダンス・基本的な刺鍼方法の復習			科目履修のポイントを理解する。頭頸部への直刺ができる。					
2	通電療法の基本			通電療法で使用する機材を基本操作を身に付ける。					
3	肩部の刺鍼			肩関節の構造および機能の復習 主要筋への刺鍼と通電					
4	頭頸部の刺鍼①			頭頸部の構造および機能の復習 つまみ押手の習得					
5	頭頸部の刺鍼②			頭頸部の構造および機能の復習 頭部への横刺					
6	肘部～前腕部の刺鍼			肘関節・手関節の構造および機能の復習 前腕屈筋群および伸筋群への刺鍼と通電					
7	肩甲間部の刺鍼			肩背部の筋肉層を理解し、安全な刺鍼操作を行う。					
8	腰部の刺鍼			腰部の筋とその作用を理解し、可動域検査により施術の目標部位を鑑別し適切に刺鍼操作を行う。					
9	腰部～殿部の刺鍼			骨盤部の構造と機能について理解する。 股関節周囲の触察と刺鍼を適切に行う。					
10	股関節部の刺鍼			可動域改善を目標に施術部位の選定を触察を中心に行う。患部への刺鍼および通電を適切に行う。					
11	膝部の刺鍼			膝関節の構造と機能を理解する。 膠原組織への通電を学ぶ。					
12	下腿の刺鍼①			下腿の構造と機能を理解する。 通電を適切に行う。					
13	下腿の刺鍼②			下腿の構造と機能を理解する。 通電を適切に行う。					
14	中間総括試験(実技)			1～13回の内容の確認を実技にて行う。					
15	通電療法の総復習			中間試験の総括を行い、修正が必要な技術の復習を行う。					
〔評価について〕 実技試験およびFormsにて確認試験行う。 実技試験は確認試験と期末試験の合計100点で評価する。評価については学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 与えられた課題に対して取り組み、その結果を自分なりに分析を行うよう努めること。不透明な部分については明確にするよう行動を起こすこと。				

2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	通年	担当教員 東 路子先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
応用はり実技									
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>大関節を中心に構造機能を理解した上で、主要筋肉、靭帯への刺鍼を行う。また、適正に機材の使用を行い鍼通電療法を実施する。</p> <p>主動筋と拮抗筋の関係性を刺鍼前・後の評価から理解する。施術者および患者役として体感した情報を元に関連する知識を自ら調べ、</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>鍼灸治療の現場で対応する確立の高い整形外科疾患を中心に病態鑑別ができるようになる。また、病態に応じた患部への鍼施術が指示通りに出来る。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 練習用動画、配布資料					〔準備学習・時間外学習〕				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
16	整形外科領域の鍼通電療法				頸部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
17	整形外科領域の鍼通電療法				頸部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
18	整形外科領域の鍼通電療法				頸部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
19	整形外科領域の鍼通電療法				肩関節部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
20	整形外科領域の鍼通電療法				肩関節部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
21	整形外科領域の鍼通電療法				腰部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
22	整形外科領域の鍼通電療法				腰部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
23	整形外科領域の鍼通電療法				膝部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
24	整形外科領域の鍼通電療法				下腿後面の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
25	整形外科領域の鍼通電療法				股関節部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
26	上肢の整形外科疾患の鑑別と通電療法				頸椎症の鑑別(神経根症の障害高位)				
27	上肢の整形外科疾患の鑑別と通電療法				胸郭出口症候群の鑑別				
28	上肢の整形外科疾患の鑑別と通電療法				肩関節周囲炎の鑑別				
29	まとめ				今まで扱った範囲の技術復習を行う				
30	期末試験				授業で扱った範囲における技術試験を行い、習熟度を測る				
〔評価について〕					〔特記事項〕				

2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	通年	担当教員 東 路子 先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
応用はりきゅう実技									
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>実技授業を通じて基礎的な鍼灸の技術習得を中心とする。病態に対して理解を深め鍼灸技術を通じ、西洋医学・東洋医学からのアプローチ方法を実践を交えながら習得する。授業以外の時間も通じて技術・知識の習得に励むこと。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>①透熱灸の大きさ・形・温度をコントロールすること出来る。 ②人体表面において部位の特徴を捉え安全に施灸することが出来る。 ③腰部～膝にかけての病態を学び、西洋医学・東洋医学からのアプローチ方法を習得し実践することができる。 ④無痕灸を理解し</p>									
〔使用教材、参考文献等〕									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 紙施灸のやり方			施灸後の紙上で穴なし・ズレなしを10壮連続できる					
2	透熱灸/頭部			頭部へ透熱灸を実践できる。					
3	透熱灸/肩周囲			肩関節周囲へ透熱灸を実践できる。					
4	透熱灸/背部			背部への透熱灸を実践できる。					
5	透熱灸/手～上肢			取穴を5分間に5穴でき2点交互灸を実践できる。					
6	透熱灸/腰部			仙骨から腰部にかけての透熱灸を実践できる。					
7	透熱灸/腹部			腹部にかけての透熱灸を実践できる。					
8	透熱灸/足～下肢			取穴を5分間に5穴でき2点交互灸を実践できる。					
9	透熱灸/足～下肢			取穴を5分間に5穴でき3点交互灸を実践できる。					
10	運動器へのアプローチ/腰痛①			疾患を理解し安全に刺入・施灸を行うことができる。					
11	運動器へのアプローチ/腰痛②			疾患を理解し安全に刺入・施灸を行うことができる。					
12	運動器へのアプローチ/腰下肢痛①			疾患を理解し安全に刺入・施灸を行うことができる。					
13	運動器へのアプローチ/腰下肢痛②			疾患を理解し安全に刺入・施灸を行うことができる。					
14	運動器へのアプローチ/股関節痛①			疾患を理解し安全に刺入・施灸を行うことができる。					
15	運動器へのアプローチ/股関節痛②			疾患を理解し安全に刺入・施灸を行うことができる。					
〔評価について〕 評価は ①透熱灸 穴なし1000壮/25点 ②レポート10点 ③運動器を中心とした刺鍼・施灸25点 ④無痕灸 実技にて25点				〔特記事項〕 運動器に関しては解剖学の復習を中心に各自行うこと					

2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科	学年	2	開講区分	通年	担当教員 東 路子 先生			
授業科目名	必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
応用はりきゅう実技								

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

実技授業を通じて基礎的な鍼灸の技術習得を中心とする。病態に対して理解を深め鍼灸技術を通じ、西洋医学・東洋医学からのアプローチ方法を実践を交えながら習得する。授業以外の時間も通じて技術・知識の習得に励むこと。

〔到達目標〕

- ①透熱灸の大きさ・形・温度をコントロールすることが出来る。
- ②人体表面において部位の特徴を捉え安全に施灸することが出来る。
- ③腰部～膝にかけての病態を学び、西洋医学・東洋医学からのアプローチ方法を習得し実践することができる。
- ④無痕灸を理解し、

〔使用教材、参考文献等〕

東洋医学臨床論(はりきゅう編)

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
16	運動器へのアプローチ/膝痛①	疾患を理解し安全に刺入・施灸を行うことができる。
17	運動器へのアプローチ/膝痛②	疾患を理解し安全に刺入・施灸を行うことができる。
18	運動器の治療 復習	演習を交え 安全に刺入・施灸を行うことができる。
19	運動器 確認試験	確認試験を通じて 運動器へのアプローチを行うことができる。
20	運動器 確認試験	確認試験を通じて 運動器へのアプローチを行うことができる。
21	知熱灸/①	散り艾を円錐形にすることができる。
22	知熱灸/②	大きさ・形・硬さをコントロールし安全に施灸できる。
23	隔物灸/①	ショウガ灸・ニンニク灸を安全に行うことができる。
24	隔物灸/②	様々な無痕灸を試してみる。
25	灸頭鍼/①	鍼枕の上で灸頭鍼を設置することができる。
26	灸頭鍼/②	鍼枕の上で灸頭鍼を設置し安全を確かめたら、自身の下腿に灸頭鍼を実施することができる。
27	灸頭鍼/③	ペアの腰部に灸頭鍼を安全に実施することができる。
28	無痕灸 総復習	無痕灸について確認試験前に技術確認を行う。
29	確認試験	確認試験を通じて無根灸の技術確認を行う。
30	確認試験	確認試験を通じて無根灸の技術確認を行う。

〔評価について〕

評価100点

- ①透熱灸 穴なし1000壮/25点
- ②レポート10点
- ③運動器を中心とした刺鍼・施灸25点
- ④無痕灸 実技にて25点

〔特記事項〕

運動器に関しては解剖学の復習を中心に各自行うこと

2023年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	半期	担当教員 東野 友寛先生			
授業科目名 リハビリテーション概論 I		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
<p>〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床現場で施術業務を行っている教員が、リハビリテーションの捉え方を理解し、どのような評価方法を行なうかの授業を行う。また、リハビリテーションとはどのような範疇をとらえているのかをみていき、評価方法の基礎を学ぶ。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。</p>									
<p>〔到達目標〕</p> <p>リハビリテーションの理念やその対象の決め方、進め方などを理解する。</p>									
〔使用教材、参考文献等〕 リハビリテーション医学(医歯薬出版)					〔準備学習・時間外学習〕 リハビリテーションの理解を深めるため、難しい用語の意味まで理解し復習を重ねることが望ましい。				
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)							
1	リハビリテーションと障害	基本理念を理解する。							
2	IHIDHとICF	ICFを理解する。							
3	リハビリテーションの対象	身体障害について理解する。							
4	リハビリテーションの進め方	チームアプローチの理解をする。							
5	高齢者と高齢社会/確認テスト①	高齢者の特性を理解する。							
6	MMTとROM	MMTとROMの違いを理解する。							
7	活動の評価	バーセルインデックス・FIMを理解する。							
8	廃用症候群	廃用症候群とは何かを知り、症状や原因などを理解し、どのようなリハビリを行なうかを理解する。							
9	ブルンストームのステージ/確認テスト②	痙性マヒと弛緩性マヒの違いを理解する。							
10	理学療法	理学療法を理解する。							
11	作業療法	作業療法を理解する。							
12	言語聴覚療法	言語聴覚療法を知り、理解する。							
13	補装具療法、リハビリテーション看護、ソーシャルワーク	補装具療法、リハビリテーション看護、ソーシャルワークについて理解できる							
14	総復習	授業の振り返りを行い、習熟度を高めることができる。							
15	期末テスト 解答・解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深めることができる。							
〔評価について〕 評価は 筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト①確認テスト②期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕				

